

<学生はとにかく「やる」・「頑張る」時!>

挑戦をして失敗をすることで、どこがダメだったのかななどの修正ポイントが分かります。

得意-苦手/好き-嫌い/興味がある-ない/こだわりも正直、学生のうちは関係ありません!! あらゆること
とにかくチャレンジをし、失敗と成功(達成感)をしっかり自分で感じてこそ、未来につながる「力」になります。

学生のうちは「経験値をいかに上げるか!」です。経験に無駄はありません。特に自分からチャレンジをしたりする
ことが、苦手な特性を思っている場合、その状況や環境と場の提供は大人にかかっています!

雨の日に傘を持つ 自分の荷物は自分で持つ 自分の事は自分でやる 準備をする など…………。

自分が生活をする上で、自分の事は自分でやるのは当然のスキルです。

少なくともスイッチで活動するメンバーにこだわりや特性などを考慮しても、一般的な年齢に伴うスキルの取得に
対して「できない」という事はないと思います。それでも、取得の過程において、特性は勿論考慮しなければならない
場合もありますが、やっぱり、日ごろの「慣れ」というトレーニングは本当に大切です。「聞きなれ」「やり慣れ」
は習得の基本です。 ですが、逆に言うと、やってもらうことに「慣れ」してしまうと…「やらなくていいもの」「やっ
てくれるもの」と判断してしまいます。これが怖いのです!!

新たな事への挑戦と失敗に、怖気づいたり、心配と言いつけをしたり、面倒と思っているのは、ズバリ!
「大人!」ですよ。 子どもの成長に対してへの、大人の「心配」は言い訳です!

失敗という経験は、チャレンジをした人にしか出来ない、大きな財産です。

失敗は成功するために挑戦をした結果であり、失敗の改善は前進に繋がります。

ミスは準備や確認をすれば防げたもので、失敗をする原因になる。

ミスをするなら失敗をした方がいい!

(ネット引用)

強いて何度も言いますが、

「就労と就職」は成長の場ではなく、「働く場」です。 学生のうちにどれだけ失敗と成功の経験が出来た
かは、将来に大きく影響します! 生活力は中学生までがカギです!

作業力よりも、生活力とルールとマナーの理解がどれだけあるかの方が問われます!

その 13 今月の活動ポイント!

<セット行動>

「行動と行動の名前(言い方)」「時間及び行動と報告等の関係性」などに関して先ずは、ルーティン式や形式と
して知っていき、意味は後付けにするやり方をしています。(自分で行動しながら、気づいていきます)

特に、「行動と行動の名前(言い方)」のマッチングは重要です。 スイッチでは、自尊心などを尊重しつつ、
「言い直し」や「やり直し」等をする事でその都度、次のステップなどに繋がるような、フォローをしています。
例えば、「状況や相手によって変化をする」、「準備をする」、「お願いします」、「ありがとうございます」という言葉は、
なかなか奥が深く難しい言葉です。またこれらの言葉は状況や自分の行動の理解が出来ていないと使いこなせ
ない言葉です。 理論的に伝え、その理解を求めるのはレベルが更に上がります。なので、とにかく様々な
状況での言葉に「聞きなれる」事から行っています。

「時間及び行動と報告などの関係性」では、制限時間や戻り(行動に関する)の時間を伝え、腕時計やタイマーを
使い、意識を持てるようにしています。